＜東北地区納税貯蓄組合連合会長賞＞

# ふるさと納税で町の活性化を

会津坂下町立坂下中学校

２年　風間　賢周

先週、テレビニュースで、福島県湯川村の「ふるさと納税」の話題が取り上げられていた。湯川村では、昨年から３万円以上の寄附に対し、地元産米コシヒカリ６０キログラムを贈呈するという取り組みをしている。この寄附への返礼品が全国的に好評で、昨年の寄附金総額が１億９百万円、そして今年については、申し込みが殺到、申し込み開始１ヶ月で既に昨年の総額を超えているという。

なぜ、僕が「ふるさと納税」を知り興味を持つようになったかというと、昨年、全国版テレビ番組でこの税について数回放送されていたからである。ふるさと納税額のうち、２千円を超える金額は、後で税控除という形で戻ってくる。かつ、各市町村の産物などの数々の返礼品から好きな品物を選び受け取ることができる。お得感たっぷりの納税であると紹介された。実際、僕の両親も全国の名前も聞いたことのない市や町に寄附をしているのを見ている。そして、宅配便で届く産地ならではの新鮮な肉や魚などを僕たち家族は満喫している。

福島県のような地方の市町村は、少子高齢化により労働人口減少が進み、財源が苦しくなっているという話しをよく聞く。日本という国全体が財政問題を抱え、国債をどんどん発行している。その中でも、地方財政の現在もそして未来も暗い。そのような地方財政の資金源として、ふるさと納税の寄附金というのは大変ありがたいし、町村産業の活性化や生活環境改善などにつながる。僕たちに直接関わることで言えば、教育対策や教育環境整備などを進めることができる。

湯川村では、僕が住む町の隣に位置する農業中心の本当に小さな村である。そこに１

億円を超える寄附が毎年集まれば、村の財政も少しずつ改善されると思う。寄附をする人たちの多くが、お得な返礼品目当てだとしても村の発展につながることを考えると、寄附をした人たちは、それぞれ社会貢献していることになると思う。ただ、忘れていけないことは、ふるさと納税の制度が成功している理由は、この制度に賛同し返礼品の提供に協力している村民の人たちがいるからだということ。

僕の住む町でも、ふるさと納税の制度を取り入れている。数品ではあるが、馬肉や酒などの地物の産物を返礼品として準備している。しかし、町のホームページによると、昨年の寄附金総額は約３百万円と湯川村に比べかなり少ない。もっとこの制度を利用し町の財政活性化につなげようとするなら、返礼品を充実させるべきだと僕は考える。そのためには、やはり町民の協力を得る取り組みを率先的に起こさないといけない。

過疎が進む地方の町村が消滅せず存続していくためにはいろいろな対策が考えられるだろうが、その中のひとつとして「ふるさと納税」の有効活用を進めたい。